

鏡川流域パートナーシップだより No.284 R8.8.14



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

鏡川流域を楽しもう！「真夏のぼっちり交流会 2026」

8月9日(日)に、「真夏のぼっちり交流会 2026」と題し、県内外の鏡川流域関係人口が集う現地交流会を開催しました！本イベントは高知市納涼花火大会に併せて一昨年から開催しており、今年は県外から4名の参加がありました。(参加者 現地：15名 オンライン：4名)

日中は高知市役所2階にある食堂レストラン「せんだんの木」で交流会を行い、夜は花火大会を楽しみました！



自己紹介後、交流会前日に実施した土佐山散策イベントを振り返りました。平石地区の旧水源や高川川溪谷を散策した様子を写真や映像で共有しました！楽しい雰囲気がよく伝わり、「次は行ってみたい！」という感想がありました♪

散策中には、各目的地で生きものを探しました。現在、高知市で開催中のスマホアプリ(Biome)を使った生物調査イベント「鏡川流域いきもの図鑑をつくろう」に、生きものの写真を投稿してくれた参加者もいました！



美しい景色が見られる鏡川流域ですが、散策の道中には、ごみや倒木、歩きにくい場所もありました。鏡川流域の豊かな自然を感じるとともに、担い手不足による山の荒廃など、鏡川流域が抱える課題を再確認しました。

このような課題に対し、参加者からは「楽しみながらいつの間にか整備できるように関わりたい」という意見がありました！各自が興味や関心のある分野で、継続的に鏡川流域の自然に関わるのが大事だと感じます。



次に、新企画「トラベルC!」について、参加者が意見を出し合いました。「トラベルC!」は、鏡川流域内外の人々が出会う日帰り旅であり、新たな交流を生み出すことが期待されます。



参加者からは、「地域の方の話を記録し、誰でも見られるようにしたい」、「企画と「ぼっちり」を組み合わせたい」など、多くの意見が挙がりました！

今後、トラベルCとして実施する様々な企画を通して、流域に暮らす人々や鏡川流域関係人口を訪ね、その暮らしや文化、活動、思いに触れることで、人と人とのつながりを広げていきたいです！

鏡川流域関係人口に関するイベントは、誰でも気軽に参加できますので、少しでも興味のある方は、ぜひご参加ください！

最後に、交流会の締めくくりとして、鏡川の真上に打ち上がる花火を観賞しました！鏡川沿いで夏の風物詩を満喫できる時間となりました。今後もこのようなイベントを継続していきたいです！そして、高知県内外の鏡川流域関係人口が増えていくように、鏡川流域の魅力を一緒に発信していきましょう！



暑い中、北海道、岡山県、長崎県からお越しいただいた皆さま、ありがとうございました！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android